

語いと英語教育(18)

Teacher Talk (3)

- Teacher Talk と言語機能 -

1995年2月20日

本研究に携わった研究員

長 勝彦 (墨田区立両国中学校)	野口 弘子 (多摩市立東愛宕中学校)
鬼山由美子 (足立区立第九中学校)	備里川正人 (足立区立第十四中学校)
原田 博子 (足立区立第十四中学校)	北原 延晃 (杉並区立和田中学校)
日臺 滋之 (東京学芸大学附属世田谷中学校)	鶴田 峰子 (台東区立下谷中学校)
二宮 正男 (狛江市立狛江第一中学校)	三浦 邦彦 (足立区立第三中学校)
横山 牧子 (立川市立立川第二中学校)	小坂きみ子 (渋谷区立原宿中学校)
吉岡千恵子 (大田区立出雲中学校)	阿久津仁史 (三鷹市立第四中学校)
米田 隆 (板橋区立板橋第四中学校)	杉本 薫 (墨田区立両国中学校)
滝之入道隆 (中央区立佃中学校)	石井 亨 (江東区立南砂中学校)
土居由起子 (足立区立第一中学校)	伊地知義信 (板橋区立向原中学校)

(所属校は発表時のものです)

目 次

. あいさつ	
. 研究経過	
. TEACHER TALK (3)	
(1) 本年度の研究に至る過程	217
(2) 本年度の研究過程	217
(3) Teacher Talk の機能別発話分析	218
(4) Teacher Talk と未習語い	223
(5) 今後の課題	225
(6) 資 料	
1 Teaching Plans	
2 未習語いリスト	
. 参考文献	226
. 編集後記	

目次は発表時のもので、ページの示されていない項目は、このダイジェスト版では省略されています。

・ あいさつ

- 省略 -

・ 研究経過

- 省略 -

・ **TEACHER TALK (3)**

(1) 本年度の研究に至る過程

『語いと英語教育(10)』では今までの文法・構造中心の授業だけでは真の伝達能力の育成にはつながっていないという反省に立って Communicative Language Teaching を取り上げた。

『語いと英語教育(11)』～『語いと英語教育(14)』では Language Functions (言語機能) と Language Forms (言語形式) を調査・研究してきた。言語機能にに応じているいろいろな場面で適切な言語形式を用いて表現できることがコミュニケーション能力の育成につながると考えた。

『語いと英語教育(12)』と『語いと英語教育(14)』では Language Functions と Language Forms を日常の授業で活用できるように整理した。前者では意志・感情等にかかわる機能、後者では実情報にかかわる機能を取りあげ、各学年で使用可能な言語形式の recommended list を作成した。

『語いと英語教育(15)』では意志・感情等にかかわる機能(意志を伴う機能 感情を伴う機能 相手の行為に影響を与える機能 挨拶等社交上の機能)の言語形式の register (言語の使用域) についての調査・研究をした。Native speakers に対してアンケート調査を行い、それをもとに Formal, Neutral, Informal の list を作成した。

『語いと英語教育(16)』では、授業の各場面で、教師は生徒にどのような言葉を使っているのかを研究した。研究部員の授業を VTR に録画し、Teacher Talk に焦点を当てて表現を拾い出した。

『語いと英語教育(17)』では Teacher Talk の必要性及び活用を検討するとともに『語いと英語教育(16)』で拾い出した表現を意志・感情等にかかわる機能について分析した。

(2) 本年度の研究過程

本年度は Teacher Talk について3年目の研究を迎えた。昨年度の5つの授業で出てこなかった機能は他の授業でも出てくる可能性が低いのか、それらの機能を意識して授業を進めた場合、どの程度の言語機能が網羅できるのかを考え、今年度はなるべく多くの Teacher Talk を集め分析してみた。

表にしたのは昨年度の5つの授業に加えた合計12の授業の分析結果である。

さらに、Teacher Talk に現れた未習語いを拾い出してみた。

(3) Teacher Talk の機能別発話に関する分析

分析を行った授業

今回分析をまとめた12の授業は指導時期の順に以下のように整理番号をつけた。2、3、5、8、9の授業については昨年度「語いと英語教育(17)」で分析したものを再収録した。右端の「資料」は上段が指導案、下段が未習語いリストの参照頁を示す。

	授業の時期	授業形態及び主な言語活動	学校(研究会等)	授業者	資料
1	1992.6.22 1年1学期	Are you - ?を用いた Guess work, Pair work	三鷹市立第四中学校 五市共催研究会研究授業	阿久津仁史	20 46
2	1993.11.5 1年2学期	What の疑問文 Group Work	墨田区立錦糸中学校 関東甲信地区 中学校英語教育研究協議会東京大会	石井 亨	22 46
3	1993.11.5 1年2学期	現在進行形を含むスキットの練習	墨田区立両国中学校 関東甲信地区 中学校英語教育研究協議会東京大会	杉本 薫	24 46
4	1994.1.24 1年3学期	can, can not の導入	墨田区立錦糸中学校 墨田区立中学校 教育研究会英語部研究授業	石井 亨	26 46
5	1992.2.18 1年3学期	スキット作り～練習～発表 ビデオ再生による評価	狛江市立狛江一中学校 東京都中学校 英語教育研究会研究部研究発表会	二宮 正男	28
6	1994.2.21 1年3学期	一般動詞過去形の疑問文 pair work	足立区立第三中学校 東京都英語科研究員地区発表会	三浦 邦彦	30 47
7	1994.10.7 2年2学期	Will you - ? Shall I - ? の導入	立川市立立川第二中学校 東京都英語科研究員部会	横山 牧子	32 47
8	1993.2.18 2年3学期	Listening, Reading 中心の授業	杉並区立和田中学校 東京都中学校 英語教育研究会研究部研究発表会	北原 延晃	34 47
9	1993.6.24 3年1学期	Team Teaching による 現在完了形の導入	杉並区立中瀬中学校 杉並区立済美研究所研究授業	日臺 滋之	38 47
10	1994.6.5 3年1学期	Listening中心の授業	板橋区立向原中学校 校内研修会	伊地知義信	40 48
11	1994.10.6 3年2学期	関係代名詞 which 目的格復習 現在分詞の形容詞的用法導入	板橋区立板橋第四中学校 日常の授業	米田 隆	42 48
12	1993.11.14 3年2学期	間接疑問文 S + V+ Wh- 節の導入	足立区立第一中学校 校内研修会	土居由起子	44 48

分析の方法

Teacher Talk の分析は、対象の授業における教師の発話を記録ビデオよりすべて収集し、次のような4種類30項目について分類を行い、その傾向について考察する方法で進められ

た。

1 Expressing & finding out intellectual attitudes 意志を伴う機能

- 1.1 expressing & asking for ideas, opinions, agreement or certainty 考え、意見、同意や確実性
について述べる / たずねる
- 1.2 expressing & inquiring about intention or lack of intention 意志の有無を述べる / たずねる
- 1.3 expressing & inquiring about possibility or impossibility 可能性の有無を述べる / たずねる
- 1.4 expressing & inquiring about ability or inability 能力の有無を述べる / たずねる
- 1.5 expressing & inquiring about obligation or absence of obligation 義務の有無を述べる / たずねる
- 1.6 seeking, giving & withholding permission 許可を求める / 与える / 留保する
- 1.7 offering to do something & reacting to it 何かをするように申し出る / それに応える
- 1.8 offering something & reacting to it 何かを差し出す / それに応える

2 Expressing & finding out emotional attitudes 感情を伴う機能

- 2.1 expressing & inquiring about liking, disliking, interest or lack of interest
好き嫌い / 興味の有無について述べる / たずねる
- 2.2 expressing pleasure, displeasure, satisfaction or dissatisfaction
喜び / 不快 / 満足 / 不満足を述べる
- 2.3 expressing compliments, praises, approval, appreciation or admiration
賛辞 / 称賛 / 同意 / 理解 / 尊敬を述べる
- 2.4 expressing & inquiring about desire or lack of desire 希望の有無について述べる / たずねる
- 2.5 expressing & responding to apology 謝罪する / それに応える
- 2.6 expressing & responding to gratitude 感謝する / それに応える
- 2.7 expressing sympathy or carefulness 同情や心配を述べる
- 2.8 expressing feelings 気分を述べる
- 2.9 expressing anxiety 不安を述べる
- 2.10 expressing embarrassment 当惑を述べる
- 2.11 expressing surprise 驚きを述べる

3 Getting things done 相手の行為に影響を与える機能

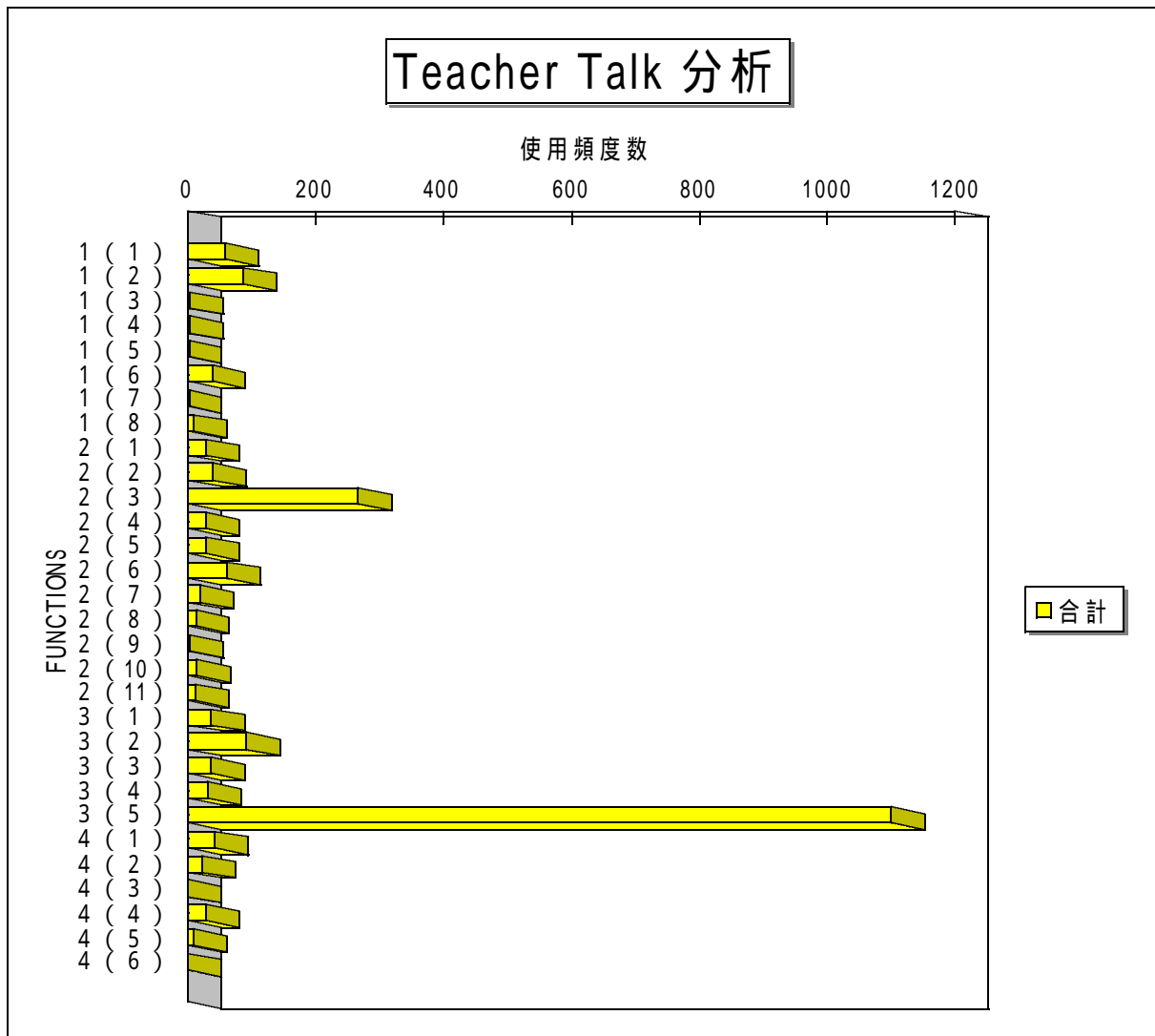
- 3.1 making suggestions & reacting to it 提案をする / それに応える
- 3.2 requesting others to do or not to do something & reacting to it
人にあることをする / しないように依頼する / それに応える
- 3.3 inviting others to do something & reacting to it
人にあることをするように誘う / それに応える
- 3.4 advising others to do or not to do something & reacting to it
人にあることをする / しないように忠告する / それに応える
- 3.5 directing others to do or not to do something & reacting to it

人にあることをする / しないように命じる / それに応える

4 Socializing 挨拶など社交上の機能

- 4.1 greeting people あいさつ
- 4.2 leave taking 別れのあいさつ
- 4.3 introducing oneself & others 紹介
- 4.4 attracting attention 気を引く
- 4.5 congratulating 祝う
- 4.6 telephone formulas 電話の決まり文句

TeacherTalk 機能別発話の分析結果 (グラフ)



TeacherTalk 機能別発話の分析結果（使用頻度数）

機能	合計	分析を行った授業（一覧表参照）											
		1 阿久津	2 石井	3 杉本	4 石井2	5 二宮	6 三浦	7 横山	8 北原	9 日台	10 伊地知	11 米田	12 土居
1(1)	58	0	0	3	4	2	0	0	17	19	1	11	1
1(2)	85	0	5	8	6	5	16	1	16	20	3	1	4
1(3)	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0
1(4)	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
1(5)	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
1(6)	37	0	8	7	0	0	0	0	14	6	1	0	1
1(7)	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
1(8)	7	0	0	0	1	0	2	0	1	2	0	0	1
2(1)	28	0	5	10	2	0	7	0	1	0	0	0	3
2(2)	38	0	0	5	0	0	0	0	1	6	1	23	2
2(3)	265	12	9	17	29	18	51	6	27	48	14	8	26
2(4)	27	0	15	0	0	1	0	2	0	8	1	0	0
2(5)	27	0	2	1	2	1	6	1	5	8	1	0	0
2(6)	60	5	2	2	3	1	18	2	2	16	1	0	8
2(7)	20	0	1	3	0	0	8	2	3	1	1	0	1
2(8)	12	0	4	0	2	0	0	4	1	0	0	0	1
2(9)	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
2(10)	13	0	0	1	0	0	0	1	5	4	0	1	1
2(11)	11	1	1	1	0	1	1	0	3	1	0	1	1
3(1)	35	0	0	3	0	4	0	2	7	9	2	7	1
3(2)	91	0	0	0	0	0	8	2	3	76	1	0	1
3(3)	35	0	5	8	0	2	1	0	4	0	13	1	1
3(4)	31	0	5	4	0	3	0	0	3	4	2	10	0
3(5)	1100	48	139	159	168	39	101	33	81	154	55	54	69
4(1)	42	3	4	3	4	8	4	2	2	5	3	1	3
4(2)	22	2	2	1	3	2	2	0	1	3	2	1	3
4(3)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4(4)	28	0	0	4	0	4	0	0	8	10	0	0	2
4(5)	8	0	2	0	0	2	0	3	1	0	0	0	0
4(6)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	2089	72	209	240	224	93	225	61	208	400	104	122	131

分析にあたって留意したこと

データ分析については集計の方法、分類の方法など試行錯誤をくり返すこととなったが、次のような点に特に留意して、分析を進めることとした。

- a. データ分析は「意思を伴う機能・感情を伴う機能・相手の行為に影響を与える機能・挨拶等社交上の機能」(8～9ページ参照)をもとに行った。
- b. 分類を行うにあたり、明らかに生徒に対する指示・命令として使われている“Let's -”という表現は、本来 LANGUAGE FORM 上は [3.3 inviting others to do something & reacting to it (人にあることをするように誘う/それに応える)] に分類されるべきものだが、FUNCTION を優先して [3.5 directing others to do or not to do something & reacting to it (人にあることをする/しないように命じる/それに応える)] に分類することとした。
- c. “O.K.” “All right.” “(Are you) Ready?” についてはどの授業でもかなり多用されており、言語機能上は教師の指示や発言の「確認」を意図しているのだが、今回の分類表には該当するものが見当たらないため、分析の対象からはずした。
- d. 同じ発言(同じ文)をくり返し続けて言っている場合は、1回と数えた。
- e. 記録ビデオの録音音声の関係で、机間指導中の個々の生徒に対して行った小さな声での発話は拾いきれていないものもある。
- f. 生徒の呼名のみはカウントしていない。

今回の調査における TEACHER TALK についての分析(全体的な傾向として)

- a. 前回同様に、全体を通じて圧倒的に多いのが [3.5 directing others to do or not to do something & reacting to it (人にあることをする/しないように命じる/それに応える)] である。一斉授業の中での生徒に対する指示・命令であるから当然の結果ではあるが、頻度については授業形態・内容・指導段階などによって違いがでてくる。

たとえば、生徒が授業の流れを知っていれば頻度数は比較的少なくなる(例 北原39% 日台38%)。他は50%以上がほとんどである。

一方、石井は一回目が66%に対して、二回目は75%になっている。二回目の方の授業形態が個々の生徒に言わせたり、やらせたりの場面が多かったためである。

- b. 次に多いのは [2.3 expressing compliments, praises, approval, appreciation or admiration (賛辞/称賛/同意/理解/尊敬を述べる)] である。生徒を励まし、意欲を引き出すためにも多く使われている。

また、三浦に比較的多く使われている [2.6] は expressing & responding to gratitude (感謝する/それに応える) という機能であるが、これも生徒を励まし、意欲を引き出す役割を果たすこともある。

- c. 頻度数の特に少なかった機能および使われなかった機能は次の7項目である。

1.3 expressing & inquiring about possibility or impossibility (可能性の有無を述べる/たずねる)

1.4 expressing & inquiring about ability or inability (能力の有無を述べる/たずねる)

1.5 expressing & inquiring about obligation or absence of obligation (義務の有無を述べる/たずねる)

- 1.7 offering to do something & reacting to it (何かをするように申し出る / それに応える)
 2.9 expressing anxiety (不安を述べる)
 4.3 introducing oneself & others (紹介)
 4.6 telephone formulas (電話の決まり文句)

これらについては、授業の内容、話題、指導方法を工夫することによって、使用頻度を高めることも可能であり、今後の研究課題である。

今回の調査における TEACHER TALK についての分析 (個々の授業について)

- 省略 -

(4) Teacher Talk と未習語

本年度の研究

1992年度から Teacher Talk が生徒の語い力 (特に receptive vocabulary - 受容語い) をつけるのに役立つと考えて本研究を進めてきた。

実際に英語で授業をするときに感じることは、教科書には出てこないが身の回りの品物を表す語や外来語などをかなり多く使用しているということである。果たして1単位時間にどれほどの数の未習語が使用されているのであろうか。

本年度は教師が教室で使用する英語 (Teacher Talk) の中にどれだけ生徒にとっての未習語が含まれているかについて、来年度の研究への橋渡しとしてパイロット調査をした。(ここでの「未習語」の定義は「その授業をするまでに教科書に表れなかった語」とした。)

パイロット調査データ

授業 8 (2年3学期) 北原教諭の Teacher Talk に現れる未習語、既習語の頻度分析一覧

————— 未習語のリスト ()内はこの授業で表れた頻度を表す —————

(2)A little (2)boss (6)Bosses (3)Change seats (3)check (1)circle (2)congratulations (2)decide (1)Excellent
 (1)Folktale (1)Hello there (1)I'm not sure (2)Mountain climber (1)Paced (2)Shadowing (4)Sorry (1)Strange
 (2)Tired (1)Try (1)according the order (1)ahead (1)already (1)arrange (2)back (1)bench (2)bosses
 (1)bridge (1)ceiling (1)choose (4)circle (1)confusing (1)correct (4)criminal (2)cross (1)etiquette (2)folktale
 (3)folktales (1)forgot (1)sheet (1)got a cold (1)grammatically (3)happens (2)heard (3)information
 (1)left hand side (1)loud (1)loud voice (2)make groups (2)missed (1)move on (1)paper (2)passed (1)point
 (1)previous (1)raise (1)remember (2)report (1)review (1)same (1)shy (1)sorry (1)stupid (4)take a memo
 (1)the other side (5)tired (1)tough (1)unknown (1)wrestling fan

既習語のリスト

(1)Africa (1)After (1)Again (2)Ah (14)All (6)And (1)Another (1)Answer (9)Are (4)Asia (1)Ate
 (2)Attack (2)Away (2)Bean (2)Become (9)Bingo (1)Cat (3)Chinese (1)Climb (1)Correct (1)Could
 (2)Dark (2)Do (1)Dog (7)Don't (1)Down (1)Earth (1)Eat (1)Eight (1)English (1)Europe (4)Everybody
 (1)Everything (4)Excuse (4)Finished (1)First (1)Five (6)For (1)Four (1)Give (1)Glad (2)Go (2)God
 (4)Good (1)Good-bye (1)Hall (1)Hands (2)He (2)Heaven (1)Help (2)Here (1)Hi (1)Hint (8)How
 (24)I (2)I'll (7)I'm (2)In (2)Information (7)Is (2)It (11)It's (3)Japanese (1)Just (10)Korean (1)Lesson
 (14)Let's (1)Light (1)Lights (1)Listen (1)Listening (3)Look (1)Look back (1)Made (1)Make-made-made
 (2)Make pairs (1)More (4)Mr (1)My (2)New (1)New York (1)Nine (10)No (7)No.1 (6)No.2 (2)No.3
 (1)No.4 (1)No.4 (1)No.5 (2)No.6 (1)No.7 (1)No.8 (3)Not (2)Nothing (7)Now (1)Number (74)OK
 (9)Oh (3)Once (1)Once again (4)One (1)Open (1)Pass (1)Perfect (14)Please (1)Pray (2)Put
 (8)Question (1)Reading (1)Ready (1)Really (1)Role-play (1)Rope (2)Run (1)Second (2)Section (1)See
 (2)Seven (1)Shall (1)Shy (1)Sit (1)Six (1)Skiing (5)So (1)Softball (1)Some (2)Something
 (1)Speak up (1)Start (5)Stop (1)Story (1)Strong (1)Such (1)Take (1)Take it easy (1)Take out (4)Ten
 (1)Thank (2)That (4)That's (16)The (2)There (1)There's (1)They (4)This (3)Three (3)Throw (1)Tiger
 (1)To (2)Today (1)Top (2)Try (3)Turn (1)Two (3)Under (1)Upon (1)Usual (19)Very (1)Was
 (7)We (1)Were (8)What (1)What about (2)What's (6)When (2)Where (7)Which (1)While (13)Who
 (10)Yes (19)You (2)You're (1)Your (44)a (3)able (3)about (1)afternoon (3)again (1)all (1)also (1)am
 (12)and (1)angry (1)answer (3)answers (1)apple (21)are (1)aren't (1)around (1)arrange (6)as (14)at (1)at
 all (1)ate (1)attacked (3)away (1)back (11)be (1)became (1)become (2)big (1)bingo (1)bingoes
 (1)books (1)boss (1)box (2)boy (1)bright (1)busy (6)but (1)by (1)came (5)can (1)can't (1)change
 (1)check (5)children (1)choose (3)club (3)come (1)coming (1)cool (1)correct (1)country(2)dark (8)day
 (5)desks(4)did (3)didn't (10)do (5)don't (1)doesn't work (3)down (1)earth (1)eaten (1)eight
 (1)enjoyed(1)enough (4)everybody (1)example (1)excuse (1)fast (1)fat (1)feelings (5)finish (2)finished
 (3)first (3)five (3)for (2)forgot (2)friends (6)game (1)garden (1)girl (3)give (1)glad (8)go (3)god
 (4)going (18)good (1)got (1)great (1)group (1)groups (2)hair (1)hand (1)happiness (1)happy (2)has
 (14)have (1)haven't (2)he (4)hear (1)heard (1)heaven (5)here (1)high (1)hint (1)hot (1)house
 (1)idea (2)if (2)important (13)in (1)into (37)is (8)it (7)it's (1)kind (2)know (10)language (1)large
 (4)last (1)learned (1)leaves (1)left (1)legs (1)lesson (1)let's (2)lights (2)list (6)listen (1)listening (1)long
 (12)look (2)lot (1)lots (1)loud (1)love (2)lucky (2)make pairs (3)many (11)me (1)member
 (1)mine (2)minutes (1)mistake (1)moon (1)mountain (2)much (2)must (2)my (1)need (2)new (1)next
 (3)no (1)no idea (16)not (2)now (1)number (8)of (3)old (1)oldest (4)on (6)one (2)only (2)open
 (5)or (1)order (1)other(1)out (6)over (1)own (1)page (1)pairs (5)paper (2)people (2)picture (3)pictures
 (1)piece (5)play (11)please (1)pleasin (1)pray (1)prays (1)put (1)questions (3)ran (1)reached (1)reading
 (2)ready (1)reason (1)rich (16)right (2)role-playing (3)rope (1)runner (1)sad (1)said (7)say (3)see
 (1)sense (2)seven (1)she (2)sheet (1)short (2)shortest (1)should (1)show (1)shy (1)sick (2)side (1)sing
 (1)singing (1)sit (2)six (4)ski (2)skiing (1)sky (1)small (1)soccer (4)some (1)something (1)song
 (3)stand (1)star (1)start (2)stop (4)story (2)strong (1)study (1)take (2)tall (4)tape (2)teachers (1)telling
 (1)ten (8)textbooks (1)than (60)the (1)their (1)then (3)there (1)thin (6)think (5)thinks (3)third
 (11)this (1)three (1)throw (4)tiger (7)time (2)times (38)to (3)today (1)tomorrow (1)towards (3)tree

(3)try (3)turn (1)turn over (3)two (12)up (2)upon (1)used (8)very (2)video (1)volleyball (1)waiting
 (1)walk (7)want (2)wanted (2)warm (5)was (2)watch (2)way (3)we (1)weak (2)week (1)welcome
 (1)well (2)went (1)wet (6)what (4)when (1)which (1)while (5)who (4)will (1)wind (1)wish (2)with
 (1)woman (1)won't (1)wonder (1)word (12)words (1)world (4)write (1)writing (2)written (4)yes
 (69)you (1)you're (1)young (25)your

授業 8 における未習語についての分析および考察

1. 未習語総数は68語である。

これは教科書には出てこないが教師の指示などで日常繰り返し耳にしているために生徒が理解できる語が相当数含まれているためである。それらの語は1単位時間内での頻度は低くても、継続的に何度も教師が使用したために生徒が受容できた語であると考えられる。

2. 「文部省学習指導要領第2章第9節外国語(英語)別表2」以外の語は63語である。

これは予想以上の数字であった。今後の授業分析数が増えることによりさらに多くの枠外の語が予想される。

3. 外来語としてカウントできる語は49語である。

総未習語数のうちに外来語が過半数を占める。教科書では扱わない語でも生徒の持つ外来語の知識を積極的に活用していくことも考える必要がある。

外来語のカウントには、『コンサイス カタカナ語辞典』(三省堂、1994年に『コンサイス外来語辞典』より改名)を利用した。

(5)今後の課題

1992年度から始まった Teacher Talk の研究も3年目を終わろうとしている。

過去2年間は Teacher Talk を Function の観点から研究した。その結果、Teacher Talk に現れる Function の特徴を把握することができるようになっただけでなく、各研究部員の授業においては Function の知識をもとに Teacher Talk を効果的に使用する場面も増加した。

今年度からは生徒の語い力を伸ばす一つの方法として Teacher Talk が役立つのではないかという仮定に立って、Teacher Talk に現れる「語い」とその出現頻度の観点から新たに調査研究を進めた。今後は、出現語いとその頻度の調査を進める一方、Teacher Talk が生徒の語い力形成にどれほど役立つかなどについてもさらに調査研究を進めていきたいと考えている。

- 以下省略 -

(6)資料

- 省略 -

. 参考文献

- **Byrne, Donn** *Techniques for Classroom Interaction* (1987. Longman)
- **Chaudron, Craig** *Second Language Classrooms* (1988. Cambridge)
- **Ellis, Rod** *Understanding Second Language Acquisition* (1989. Oxford University Press)
- **Gains, Ruth and Redman, Stuart** *Working with Words* (1990. Cambridge University Press)
- **Hidai, Shigeyuki** *A study of Techniques for Teaching Vocabulary in a Lower Secondary School*
(1991. the University of Nottingham)
- **Hughes, Glyn S.** *A Handbook of Classroom English* (1981. Oxford University Press)
- **Kitahara, Nobuaki** *A study on Pair Work and Group Work* (1989. University of Exeter)
- **Krashen & Terrell** *The Natural Approach* (1985. Pergamon / Alemany)
- **Kitashima, Mary & 奥田 夏子** 『楽しい教室英語』 (1961. 大修館書店)
- **松香フォニックス研究所** 『40時間でフォニックス』
(1988. 松香フォニックス研究所)
- **Norman, Levin & Hedenquist** *Communicative Ideas*
(1986. Languange Teaching Publications)
- **Sinclair, J. McH. & Brazil, D.** *Teacher Talk* (1982. Oxford University Press)
- **高梨 庸雄 他** 『教室英語活用事典』 (1992. 研究社出版)
- **東京都中学校英語教育研究会・研究部** 『外来語と英語教育 (1) ~ (7) 』
(1977 - 1984)
- **東京都中学校英語教育研究会・研究部** 『外来語と英語教育 (8) ~ (16) 』
(1985 - 1991)
- **梅田 修 他** 『学習者中心の教室英語』 (1989. 大修館書店)
- **Willis, Jane** *Teaching English through English* (1991. Longman)
- **文部省** 『中学校指導書 外国語編』 (平成元年7月. 開隆堂)
- **三省堂編修所** 『コンサイス カタカナ語辞典』 (1994. 三省堂)
- **竹蓋 幸生 編著** 『英語科のCAI』 (1986. エデュカ株式会社)

. 編集後記

- 省略 -